

平成28年度 鎌ケ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	義務教育施設維持補修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	2・3	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	後藤 由美			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成26年度に実施できなかった体育館の改修工事を行う。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	鎌ケ谷小学校の外壁屋上改修工事の際に老朽化した建具の改修を併せて行う。
②①に基づく取り組み結果	中部小学校体育館の床改修のほか、鎌ケ谷小学校トイレ改修、鎌ケ谷中学校外壁屋上改修、鎌ケ谷中学校集水槽設置、第四中学校プール改修を実施し、工事を完了した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校校舎・体育館	意図(対象をどうするのか)	学習環境の向上を図る
②事務事業の概要	老朽化した施設、設備等について、計画的に改修を行い、学習環境の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	施設の建設時期が一定期間に集中していることから、全体的に老朽化が進んでいる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	予定した事業をすべて計画通りに完了し、学習環境の向上を図った。					
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠
	i	校舎工事に関する生徒/全生徒	8	29	18%	実施校生徒数/全生徒数
	ii	体育館工事に関する生徒/全生徒	5	0	10%	実施校生徒数/全生徒数
	iii	その他工事に関する生徒/全生徒	0	20	13%	実施校生徒数/全生徒数
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	196,017	194,709	金額(千円)	内容	199,912	
国支出金(千円)			3,577	小学校工事設計委託費		
県支出金(千円)			52,833	小学校工事費		
市債その他(千円)	191,000	145,000	6,644	中学校工事設計委託費	149,800	
一般財源(千円)	5,017	49,709	131,655	中学校工事費	50,112	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	施設の老朽化に伴い、事業の進捗ペースを速める必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	施設の老朽化に伴い、改修ペースを前倒しする必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	校舎外壁、トイレ改修等工事	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	計画どおり実施した。	199,632	199,632	当初	199,632	H26からの繰越	0	
				H26⇒27繰越				
③達成状況	完了			補正		194,709	現年分	194,709
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
		平成28年度への繰越額(単位:千円)				0		

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	義務教育施設空調設備設置事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	3	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	後藤 由美			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	中学校5校に空調設備を設置する。	③平成28年度に取組む改革・改善内容	平成27年度で終了のため、なし。
②①に基づく取組み結果	中学校5校の教室に空調設備の設置を完了した(小学校9校は26年度に設置完了)。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内小中学校	意図(対象をどうするのか)	学習環境の向上を図る。
②事務事業の概要	夏季期間の学習環境を向上させるため、教室に空調設備を設置する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	近年の猛暑に伴い空調設備の設置要望が多く、近隣市においても同様の事業が検討されている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	中学校5校の空調設備設置工事の完了。						
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i	設置工事实施設計	64	100	100	%	実施済校数/全校数
	ii	設置工事	0	64	100	%	実施済校数/全校数
iii							
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算		
事業費(千円)	920,291	566,230	金額(千円)		内容		0
国支出金(千円)	133,345		566,230		中学校工事費		
県支出金(千円)							
市債その他(千円)	784,000	424,400					
一般財源(千円)	2,946	141,830					

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	平成27年度において、小中学校の空調設備設置を完了したため、今後は、適正な維持管理を行っていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	平成27年度で全中学校の工事を完了した(小学校は26年度で完了)。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	中学校5校の空調設備設置工事	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	計画どおり実施した。	699,280	699,280	当初	699,280	566,230	H26からの繰越	0
				H26⇒27繰越			現年分	566,230
③達成状況	完了							
④未完了・非着手の理由		平成28年度への繰越額(単位:千円)		0				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	義務教育施設用地整備事業	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	2	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	後藤 由美			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	西部小学校用地の購入。	③平成28年度に取組む改革・改善内容	平成27年度に購入した西部小学校用地は、車両通行用の進入路の拡幅及び駐車場の整備を行う。 五本松小学校用地の購入を行う。
②①に基づく取組み結果	西部小学校用地の購入を完了した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校施設	意図(対象をどうするのか)	施設運営に必要な用地を確保する。
②事務事業の概要	児童・生徒の活動環境向上のため、必要な用地を確保する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成27年度に購入した西部小学校用地の整備を進めるとともに、安定的な学校運営を図るため、借地である五本松小学校用地の購入を行う。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	西部小学校用地の購入を完了した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i	用地の購入状況	25	75	80	%	購入完了数/予定学校数(5校)
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算		
事業費(千円)	148,263	11,477	金額(千円)	内容		13,860	
国支出金(千円)			20	消耗品費(契約印紙購入費)			
県支出金(千円)			357	委託料(不動産鑑定、登記委託)			
市債その他(千円)	133,300	10,200	11,100	公有財産購入費(用地購入費)		8,800	
一般財源(千円)	14,963	1,277				5,060	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	平成27年度に購入した西部小学校用地の整備を進めるとともに、五本松小学校用地の購入に向けた準備を行う。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	平成27年度に購入した西部小学校用地の整備を進めるとともに、五本松小学校用地の購入を行う。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	西部小学校用地の購入	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	計画どおり用地購入を完了した。	12,320	12,320	当初	12,320	H26からの繰越	0	
				H26⇒27繰越				
③達成状況	完了			補正		11,477	現年分	11,477
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
平成28年度への繰越額(単位:千円)							0	

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	義務教育施設非構造部材耐震改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	2	1	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	後藤 由美			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	小学校9校のガラス飛散防止フィルム貼付、照明器具の耐震改修工事	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	平成27年度で終了のため、なし。
②①に基づく取り組み結果	小学校9校のガラス飛散防止フィルム貼付、照明器具の耐震改修工事を完了した(中学校5校については26年度で完了)。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内全小中学校校舎・体育館	意図(対象をどうするのか)	非構造部材の安全性を確保する
②事務事業の概要	体育館天井落下防止対策、ガラス飛散防止対策、照明器具落下防止対策を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	文部科学省では非構造部材の耐震化を積極的に進めており、特に天井落下防止対策は平成27年度の完了を求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	小学校9校のガラス飛散防止フィルム貼付、照明器具の耐震改修工事を完了した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i	天井落下防止対策	100	100	100	%	実施済校/対象校
	ii	ガラス飛散防止対策	0	36	100	%	実施済校/全校
	iii	照明器具耐震対策	0	36	100	%	実施済校/全校
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算		
事業費(千円)	71,225	115,544	金額(千円)		内容		
国支出金(千円)	21,589	40,110	28,766		小学校委託料(ガラスフィルム貼付委託)		
県支出金(千円)			86,778		小学校工事費(照明器具改修工事)		
市債その他(千円)	48,100	74,600					
一般財源(千円)	1,536	834					

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	平成27年度において、小中学校の非構造部材耐震改修を完了したため、今後適正な維持管理を行っていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	平成27年度で全小学校の非構造部材耐震改修を完了した(中学校は26年度で完了)。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	0	当初	0	H26からの繰越	
			H26⇒27繰越			
③達成状況			補正		現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成28年度への繰越額(単位:千円)					

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学校運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	市村 昌子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	今後、可能な限り、保護者や児童生徒が希望する学校に入学していただくよう、学区の見直しも視野に入れて検討を行う。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	学校選択制についてはある程度制度の定着が見られたことから、児童生徒の育成環境への取り組みとして、学校における効率的かつ円滑な業務の実施について検討する。
②①に基づく取り組み結果	・学校選択制については、制度の発足から期間が経過したことから、ある程度制度の定着が見られた。また、学区の見直しを視野に入れ学区審議会で検討し、現状制度のまま実施する方向性を出した。 ・児童生徒の育成環境への取り組みとして、学校における効率的かつ円滑な業務の実施について検討した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校の入学予定者(学校選択制)および学校用務員の退職のあった市内小中学校(学校環境整備)	意図(対象をどうするのか)	・(学校選択制)学びたい、学ばせたい学校に入学できる。 ・(学校環境整備)学校環境整備について、民間委託を行う。
②事務事業の概要	・小中学校入学予定者が入学の前年に入学を希望する学校を選択できる学校選択制を実施する。 ・学校用務員の退職者がいた学校について、新たな人員配置に代わり民間委託を行うことで、人件費の抑制および民間のノウハウの活用によるさらなる学校環境の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	・(学校選択制)平成14年度制度開始以来、10年を過ぎ、市民の間にある程度制度の定着が見られるようになった。 ・(学校環境整備)実施当初の平成21年度には7校、平成25年度には11校で実施。今後も学校用務員の退職が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	・(学校選択制)87名より申請があった。中学校1校について、11名の受け入れ可能枠に対して20名の申出があったことから抽選会を実施。結果、申請者数87名のうち78名が希望通りの学校へ入学することが出来た。 ・(学校環境整備)平成27年度には11校で委託を実施した。年度後期は事故や病気等による派遣人員の欠員があったが、補充人員の派遣について委託業者の迅速な対応があったことから、円滑に作業を進めることが出来た。						
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i	小中学校入学予定者数	1,887	1,964	1,908	人	業務取得
	ii	学校選択制申請者数	80	95	87	人	業務取得
iii							
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算		
事業費(千円)	17,982	21,312	金額(千円)		内容		21,755
国支出金(千円)			552		学校評議員報償		560
県支出金(千円)			17,595		学校施設環境整備		17,613
市債その他(千円)							
一般財源(千円)							

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	児童生徒の育成環境への取り組みとして、学校における効率的かつ円滑な業務の実施について検討が必要。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	人員補充や業務内容における迅速かつ柔軟な対応、および効率化のため、民間委託化による環境整備が必要であるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		H26からの繰越
		H26→27繰越		
③達成状況		0	0	現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当	
	平成28年度への繰越額(単位:千円)			

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	少人数教育推進に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	1	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	飯塚博文			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	少人数指導の質の向上を図るため、きらり先生研修会のみならず各種研修会でも効果的な実施について指導支援していく。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	少人数指導の質の向上を図るため、市教育委員会指導訪問および要請訪問時に授業研究、協議会を実施し、きらり先生研修会を含め、効果的な実践について指導支援していく。
②①に基づく取り組み結果	研修会を2回実施し、少人数指導の効果的な学習形態の在り方の研修や情報交換を行った。指導計画、指導報告を精査し、授業改善に繋げる。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の児童生徒	意図(対象をどうするのか)	児童生徒にきめ細やかな学習を行うとともに、学校の活性化を図る。
②事務事業の概要	市内小中学校に1名ずつ少人数教育指導教員(きらり先生)を配置し、きめ細かな学習指導を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	児童生徒、保護者、教職員は少人数指導教員の導入に好感を持っており、議会においても少人数指導教育の推進に好意的である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	少人数指導教員(きらり先生)の配置により、各校チーム・ティーチングや少人数指導が可能となり、児童生徒の学習意欲や基礎的な学力の向上を図る等、きめ細かな指導をすることが出来た。児童生徒、教職員、保護者からもよい評価を得ることができ、学校の活性化を図ることができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i	きらり先生配置数	14	14	14	人	業務取得
	ii	きらり先生授業時間数	9,800	9,800	9,800	時間	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳			平成28年度予算	
事業費(千円)	23,366	23,405	金額(千円)		内容	26,562	
	国支出金(千円)		22,985		少人数指導教員		
	県支出金(千円)		415		校外学習引率旅		
	市債その他(千円)		28		校外学習引率入		
	一般財源(千円)	23,366	23,405			26,562	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	少人数指導の質の向上を図るため、きらり先生研修会のみならず各種研修会でも効果的な実施について引き続き指導支援していく。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	学力向上のためにもきめ細やかな指導を行うことは重要であり、効果的な実施がなされているが、さらに指導方法等について向上を図っていく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H26からの繰越	
		H26⇒27繰越			現年分	
③達成状況		補正				
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	特別支援教育推進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	飯塚博文			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)の研修と、心理発達相談員による迅速かつ専門的な指導を行う。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)の研修を年3回から年4回に増やす。また、市内全14校で心理発達相談員による巡回相談を実施し、専門的な指導・助言を行う。
②①に基づく取り組み結果	年3回の特別支援教育推進指導教員の研修会にて事例報告やグループ協議、情報交換を積極的に取り入れた。心理発達相談員による巡回相談を市内全14校で複数回実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	特別支援教育が必要と思われる市内児童生徒	意図(対象をどうするのか)	特別支援教育が必要と思われる児童生徒個々のニーズに応じたきめ細かな指導を行う。
②事務事業の概要	市内小中学校に1名ずつ(大規模校2名)ずつ特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)を配置し、通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒に対してきめ細かな学習指導・学校生活支援を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	特別な支援の必要な児童生徒は年々増加傾向にある。インクルーシブ教育システムの構築に向け、多様化する個々のニーズに応じた専門的な指導やきめ細やかな支援体制づくりがさらに求められる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	一人一人の児童生徒のニーズにあわせて、特別支援教育のねらいを明確にし、効果的な学習形態で、きめ細かな指導を行うことができた。このような中で児童生徒は落ち着いて学習に取り組むことができるようになり、学び方や友達との関わりも好転するなど、学習の成果も上がってきた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	算定根拠
	i	該当児童生徒数	162	186	176	人	業務による取得
	ii	特別支援を受けている児童生徒数の割合 該当児童生徒数/必要児童生徒数	31	32	34	%	業務による取得
iii							
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算		
事業費(千円)	27,379	28,857	金額(千円)	内容		34,837	
国支出金(千円)			28,438	特別支援教育推			
県支出金(千円)			417	特別支援教育推			
市債その他(千円)			34	特別支援教育推			
一般財源(千円)	27,379	28,857				34,837	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	対象となる児童生徒一人一人の多様なニーズに応じたきめ細やかな支援・指導のための時間の確保が課題である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	特別な支援を要する児童生徒の増加と個々の特性に応じた教育的ニーズの高まりにより、保護者の期待と信頼が大きいため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	研修及び巡回相談の充実	平成27年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額	決算額				
②計画に対する事業実績	事例報告と情報交換会の実施	34,837	34,837	当初	34,837	28,857	H26からの繰越	
				H26⇒27繰越			現年分	28,857
③達成状況	完了							
④未完了・非着手の理由								
		平成28年度への繰越額(単位:千円)						